科目名	日常生活を支援する技術Ⅲ	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	ディプロマポリシー３に基づく。看護は具体的な看護実践活動を通して果たされるものであり、看護の目標を達成するために看護技術があることを理解する必要がある。日常生活を支援する技術では、看護の対象となる個人が最適な健康を踏まえた日常生活が営めるようにするために、援助の必要性を考え対象に合った方法を具体的に考える必要がある。看護の実践ができるようになるために、暮らしの中の動作がどのようなからだのしくみによってなされているかを知り、科学的根拠を考えながら援助の必要性を理解し、方法を考えられるようにする。また、援助を受ける対象を観察し、対象の気持ちを考えながら援助を行う必要がある。 　ここでは日常生活の中で、栄養(食べる)と排泄(トイレに行く)することの意義から健康とのかかわりを知り、対象や場に応じた援助を科学的根拠に基づき実践できる知識、技術、態度を学ぶ。		
講義形態	講義・演習		
学習目標	１．解剖生理学的な人間の身体的機能に基づいた援助の根拠が理解できる。 ２．対象における栄養・排泄に関する援助の必要性が理解できる。 ３．対象を観察しながら援助を行うことができる。 ４．安全・安楽・自立を基本とした援助が実施できる。 ５．演習での患者体験・看護師体験を通して、看護師として必要な態度を身につけることができる。		

	学習内容	事前学習・事後学習
学習内容 (授業計画)	１回目　B6:D13ガイダンス、人間にとっての食の意義	前：解剖生理の消化機能の学習と自分の食事の振り返り・ 後：意義のまとめ
	２回目　食事の援助技術	前：教科書のURLにて事前に動画を確認
	３回目　食事の援助を考える視点	前：食事の援助技術を読んで疑問 後：援助技術の根拠をまとめる
	４回目　食事介助（演習）	看護師として気を付けたいこと 後：援助実施のポイントと根拠をまとめる
	５回目　非経口的栄養摂取の援助 （経管チューブの挿入・管理　経腸栄養法　経静脈栄養法）	前：経管栄養で気を付けること 後：援助実施のポイントと根拠をまとめる
	６回目　非経口的栄養摂取の援助	同上
	７回目　人間にとっての排泄の意義 排泄の援助技術　排泄援助を考える視点	前：解剖生理の排泄機能の学習の振り返り 後：意義のまとめ
	８・９回目　自然排便・排尿・便器・尿器を用いた排泄援助－尿器・便器のあて方　ポータブルトイレの介助－　環境の整備(演習)	前：教科書のURLにて事前に動画を確認・気を付けることをまとめる 後：援助実施のポイントと根拠まとめる
	１０・１１回目　浣腸	前：教科書のURLにて事前に動画を確認・気を付けることをまとめる 後：援助実施のポイントと根拠をまとめ技術練習
	１２回目　おむつ交換、陰部洗浄	前：おむつ装着体験、おむつ装着時気を付けることまとめる 後：おむつ交換・陰部洗浄の手順書作成
	１３・１４回目　導尿・膀胱留置カテーテル挿入患者の観察	前：教科書のURLにて事前に動画を確認・気を付けることをまとめる 後：援助実施のポイントと根拠をまとめ技術練習

使用テキスト	系統看護学講座　基礎看護学　基礎看護技術Ⅱ　(医学書院)
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	学習内容を参考にしてください。 演習前には、事前にテキストの該当部分や動画を見て練習をしてから授業に臨んでください。 演習後には、行った技術の練習を行ってください。
評価基準と 評価方法	試験で評価する
備考	